



## 団塊世代の意識についての調査レポート

---

2009/8/18

株式会社ネットマイル  
<http://research.netmile.co.jp/>

※本レポートについて、当社の許可なく無断転載・複写を禁じます。また、本レポートにかかわる損害賠償の責を一切負いません。  
本レポートの転載、および一部引用が必要な場合には、お問い合わせフォームよりご連絡ください。

# 団塊世代の意識についての調査レポート

2009/8/18

## 調査概要

調査タイトル:	団塊世代の意識についてのアンケート
調査手法:	インターネットリサーチ(ネットマイル会員による回答)
調査票種別:	Easyリサーチ
実施期間:	2009/7/30 14:16 ~ 2009/7/30 17:46
回答モニタ数:	400

ネットマイルでは団塊世代の意識調査について、2009年7月30日に全国の団塊世代400名に対してアンケート調査を実施した。

団塊世代は、本来1947年から1949年の間に生まれ、2009年度においては60歳から62歳の人をいうが、調査時期を考慮し今回の調査では56歳から65歳までを対象として、「56-59歳」「60歳-62歳」「63-65歳」の3層で比較した。

回答者の状況は「男性」「女性」各200名。年齢は「56-59歳」が32.5%、「60-62歳」が35.0%、「63-65歳」が32.5%。婚姻状況は「未婚」が10.5%、「既婚」が89.5%。居住地域は「北海道・東北地区」が9.0%、「関東地区」が42.5%、「北陸・甲信越地区」が3.5%、「東海地区」が11.0%、「近畿地区」が19.5%、「中国地区」が4.5%、「四国地区」が2.8%、「九州・沖縄地区」が7.2%であった。

回答の結果から、現在の生活に“満足している”人は全体の4割以上で、「63-65歳」ではほぼ半数に達したことがわかった。

また、6割近くの人がこの先「自分」にお金をかけたいと回答し、男性は「自分の趣味」や「スポーツ」、女性は「家族と過ごす時間」にお金や時間をかけたいという結果であった。

このほか、政治面の質問として、差し迫ってきた2009年8月30日の衆議院議員選挙について支持予定政党を聞いたところ、2009年7月末時点では「民主党」が優勢という結果であった。

以下、それぞれの回答結果についてレポートする。

## 現在の生活に“満足している”人が全体の4割以上、 「63-65歳」ではほぼ半数

---

「あなたの現在の生活全般の満足度はどのくらいですか？」という質問を、「満足」から「不満」までの5件法でおこなった。

全体では、「満足」4.8%と「まあ満足」40.0%をあわせた“満足している”の回答率が44.8%、「満足でも不満でもない」が24.9%、「やや不満」21.5%と「不満」8.8%をあわせた“不満である”が30.3%という結果であった。

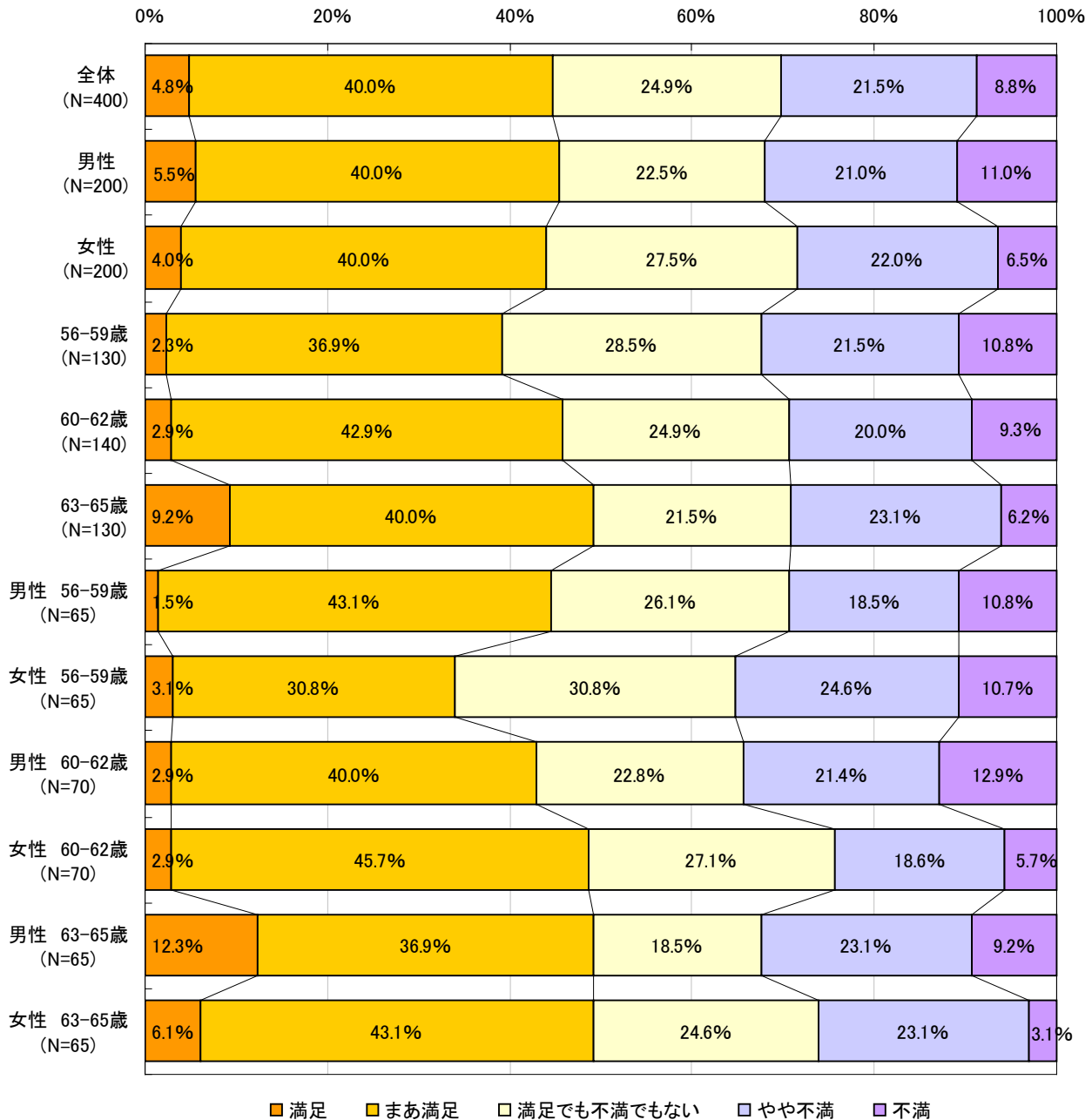
性別・年代別に特徴的な項目をみると、「満足」では「男性63-65歳」の回答率が12.3%と唯一1割を超え、ほかに比べかなり高かった。また“満足している”の回答率が高かったのは「男性63-65歳」「女性63-65歳」「女性60-62歳」で半数近くに達した。

一方「不満」では「男性60-62歳」の回答率が12.9%とほかに比べ最も高かった。また“不満である”の回答率が高かったのは「女性56-59歳」「男性60-62歳」で3割を大きく超える結果であった。

概ね年齢区分が上がるごとに“満足している”の回答率が高くなる傾向がみられた。

# 現在の生活に“満足している”人が全体の4割以上、 「63-65歳」ではほぼ半数

Q1 あなたの現在の生活全般の満足度はどのくらいですか？



## 2009年8月30日衆議院議員選挙の支持予定政党は「民主党」が1位

「支持している政党についてお答えください。」という質問を、《いままで最も支持している政党》と《2009年8月30日の衆議院選挙で支持する予定の政党》の2系統で質問した。

### 《いままで最も支持している政党》

全体では「自由民主党」の回答率が29.3%と最も高く、次いで「民主党」が20.5%という結果であった。そのほかの政党の回答率は1割に満たなかったが、一方で「支持政党はない」の回答率は37.5%と4割近くに達した。

男女別にみても、「自由民主党」の回答率には大きな男女差は見られなかったが、「民主党」では女性に比べ男性の回答率が高かった。また「支持政党はない」では男性よりも女性の回答率が高かった。

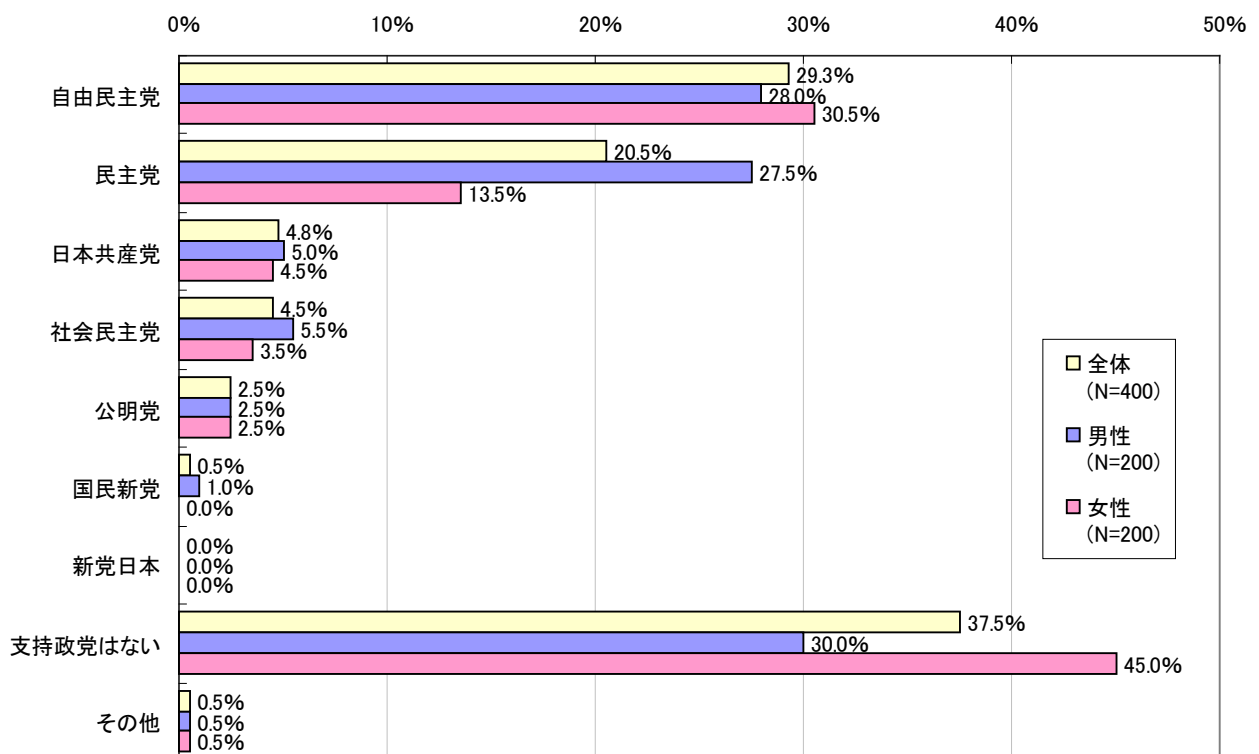
### 《2009年8月30日の衆議院選挙で支持する予定の政党》

全体では「民主党」の回答率が46.8%と圧倒的に高く、次いで「自由民主党」が12.0%という結果であった。また「支持政党はない」は28.3%と3割近くに達した。

男女別にみても、「民主党」では女性に比べ男性、一方「支持政党はない」では男性に比べ女性の回答率が高かった。

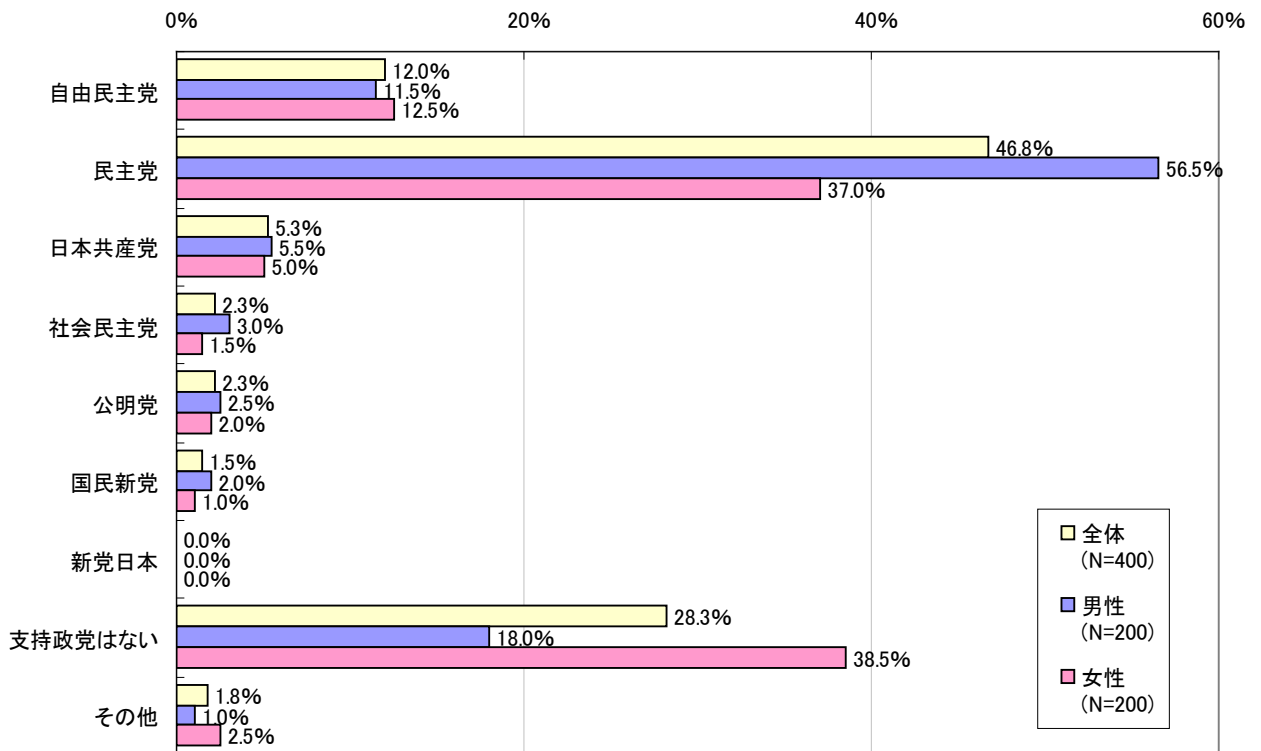
支持政党について、“いままで”と“2008年8月30日の選挙時”と比較してみると、「民主党」の回答率が大幅に上昇した一方で、「自由民主党」「支持政党はない」の回答率は減少しており、選挙に対する関心の高まりとともに「民主党」への期待をうかがわせる結果であった。

Q2 支持している政党についてお答えください。  
《いままで最も支持している政党》

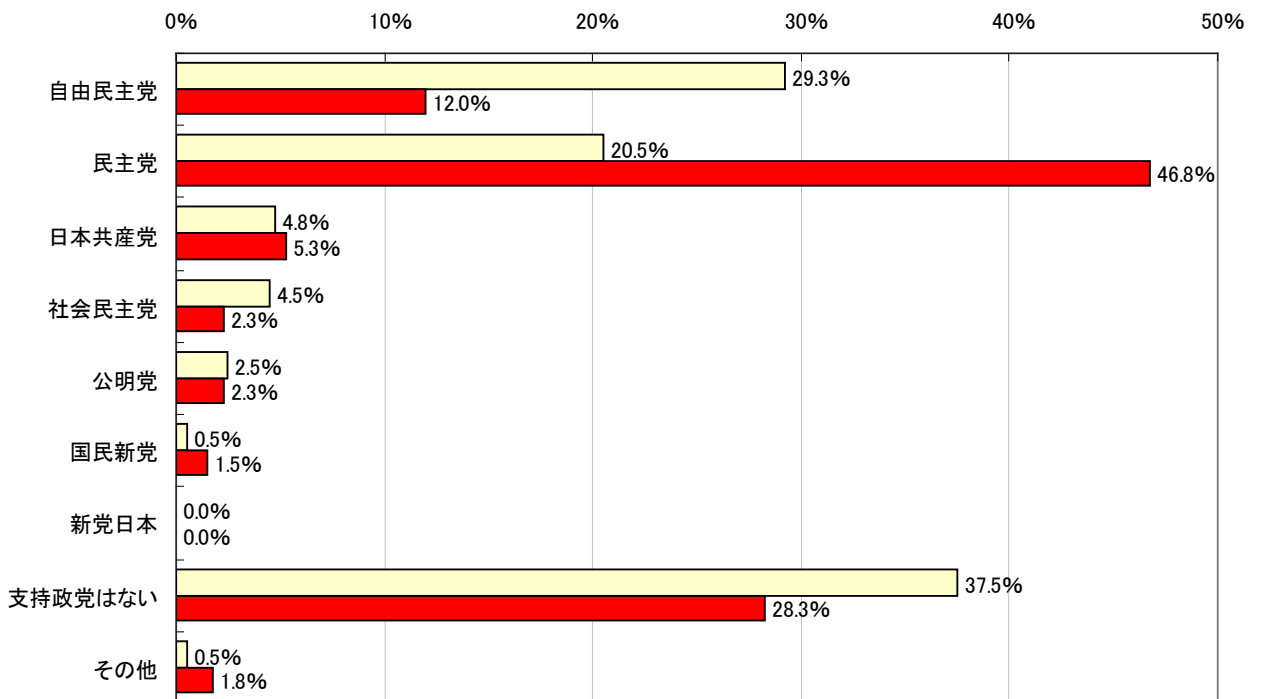


## 2009年8月30日衆議院議員選挙の支持予定政党は「民主党」が1位

Q2 支持している政党についてお答えください。  
《2009年8月30日の衆議院選挙で支持する予定の政党》



Q2 支持している政党についてお答えください。



□ いままで最も支持している政党

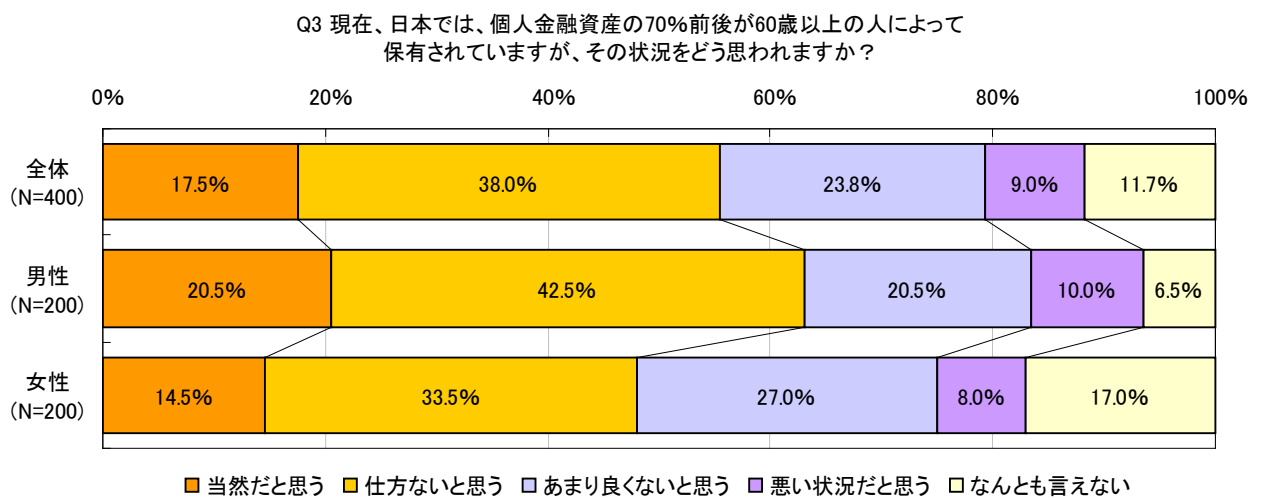
■ 2009年8月30日の衆議院選挙で支持する予定の政党

## “肯定派”は女性よりも男性に多く6割以上

「現在、日本では、個人金融資産の70%前後が60歳以上の人によって保有されていますが、その状況をどう思われますか？」という質問を、「当然だと思う」から「悪い状況だと思う」までの4つの選択肢に「なんとも言えない」を加えた5件法にておこなった。

全体では、「当然だと思う」17.5%と「仕方ないと思う」38.0%をあわせた“肯定派”が55.5%、一方「あまり良くないと思う」23.8%と「悪い状況だと思う」9.0%をあわせた“否定派”が32.8%、また「なんとも言えない」が11.7%という結果であった。

男女別にみると、“肯定派”は男性で6割以上に達したが、女性では半数に満たなかった。

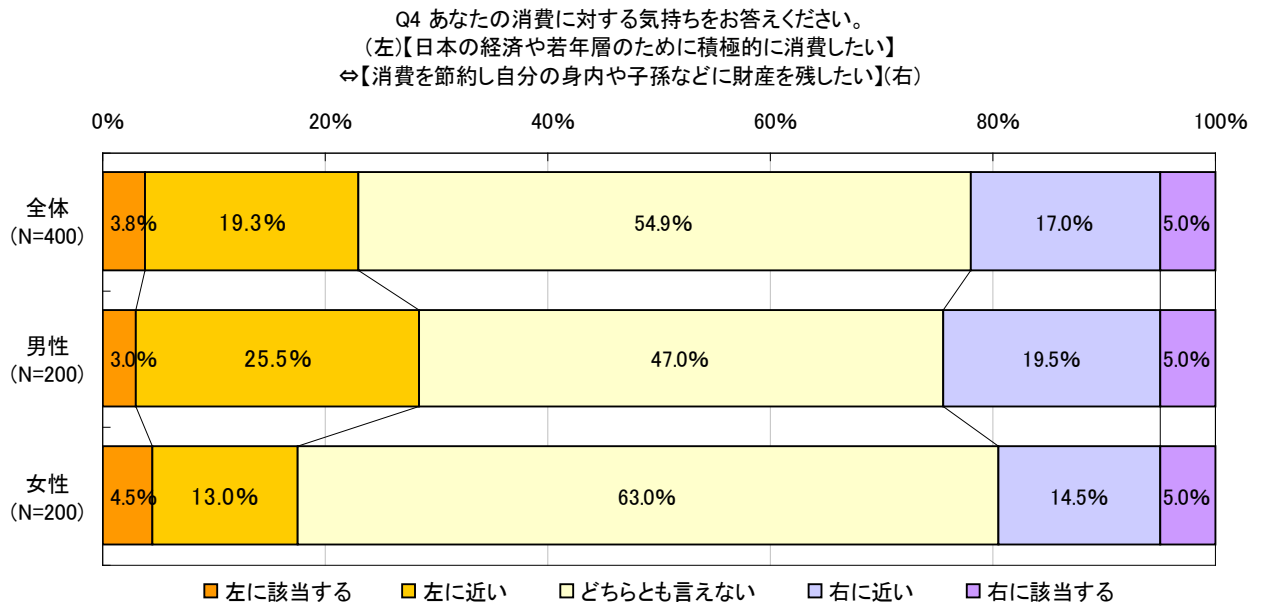


## 【日本の経済や若年層のために積極的に消費したい】と 考えているのは女性より男性に多め

「あなたの消費に対する気持ちをお答えください。」という質問について、【日本の経済や若年層のために積極的に消費したい】と【消費を節約し自分の身内や子孫などに財産を残したい】の2項目を比較し、どちらに近いかに回答してもらった。

全体では、【日本の経済や若年層のために積極的に消費したい】(「左に該当する」と「左に近い」の合計)と考えている人が23.1%、「どちらともいえない」が54.9%、【消費を節約し自分の身内や子孫などに財産を残したい】(「右に該当する」と「右に近い」の合計)と考えている人が22.0%という結果であった。

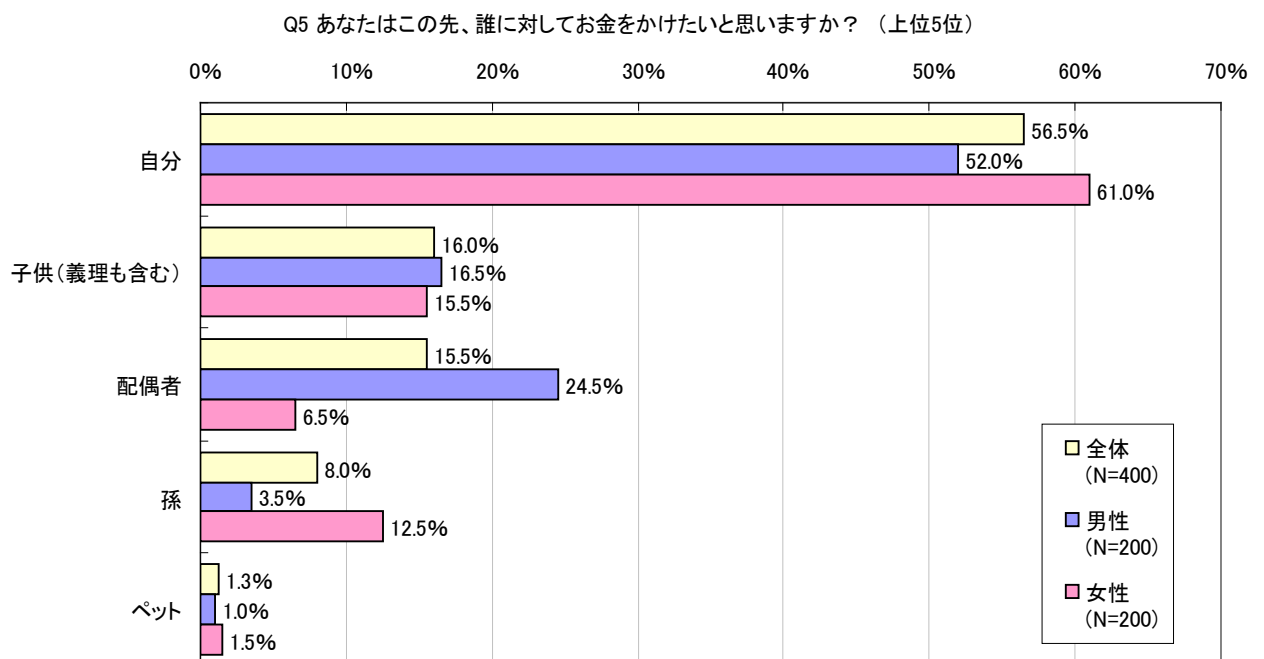
男女別にみると、男性は女性に比べ【日本の経済や若年層のために積極的に消費したい】と考える人が多かった。



## この先、お金をかけたいのは「自分」、 また「配偶者」に対しては男女間に温度差

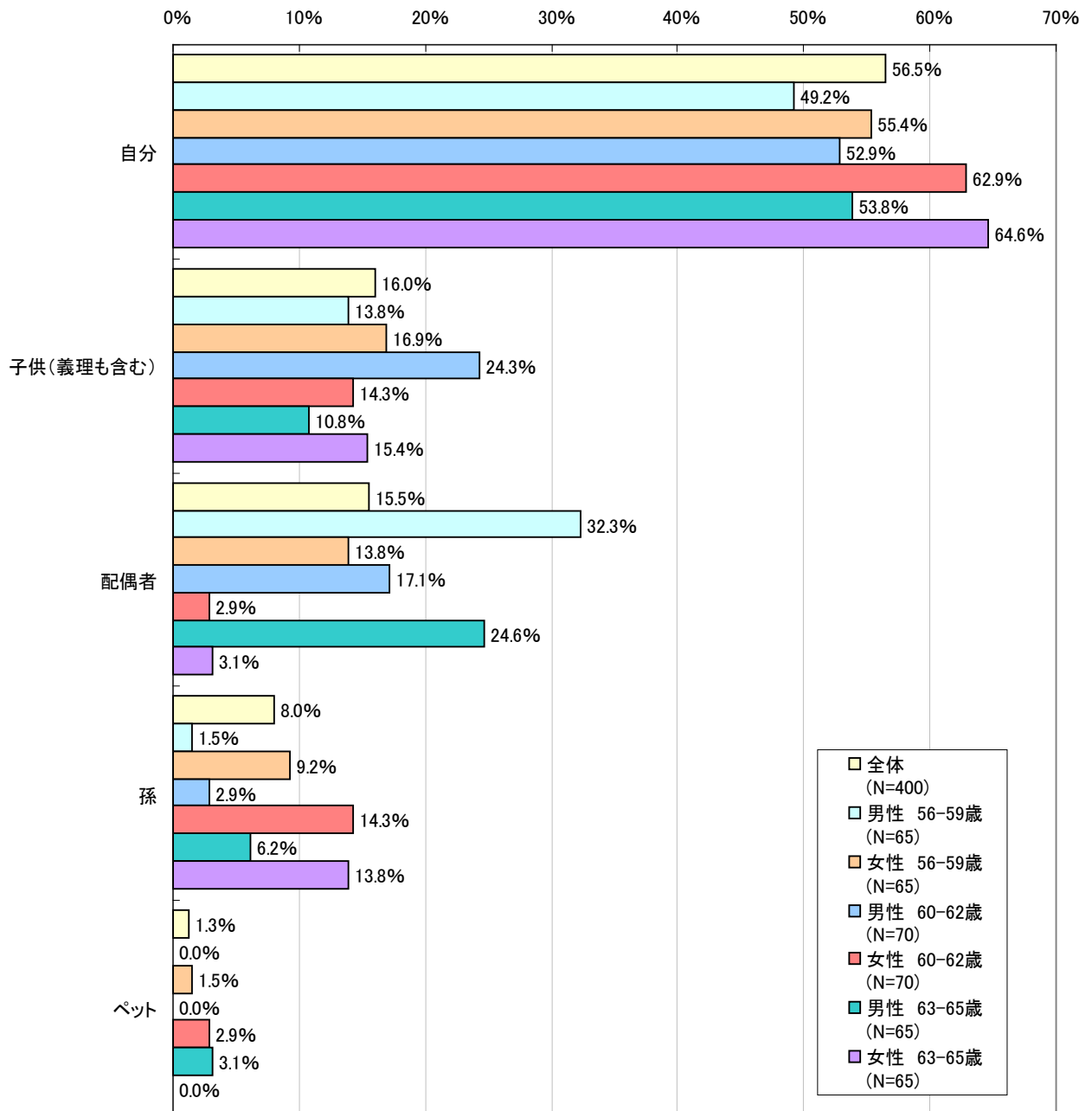
「あなたはこの先、誰に対してお金をかけたいと思いますか？」という質問をおこなった。全体では、「自分」の回答率が56.5%、次いで「子ども(義理も含む)」が16.0%、「配偶者」が15.5%と続いた。

男女別に特徴的な項目をみると、「自分」や「孫」では男性より女性の回答率が高かった一方で、「配偶者」では男性に比べ女性の回答率がかなり低いという結果であった。この結果を男女・年齢区別にさらに詳しくみると、「女性60-62歳」「女性63-65歳」で「配偶者」の回答率がかなり低くなっており、夫と妻のお互いに対する温度差が顕著に感じられる結果であった。



## この先、お金をかけたいのは「自分」、 また「配偶者」に対しては男女間に温度差

Q5 あなたはこの先、誰に対してお金をかけたいと思いますか？（上位5位）

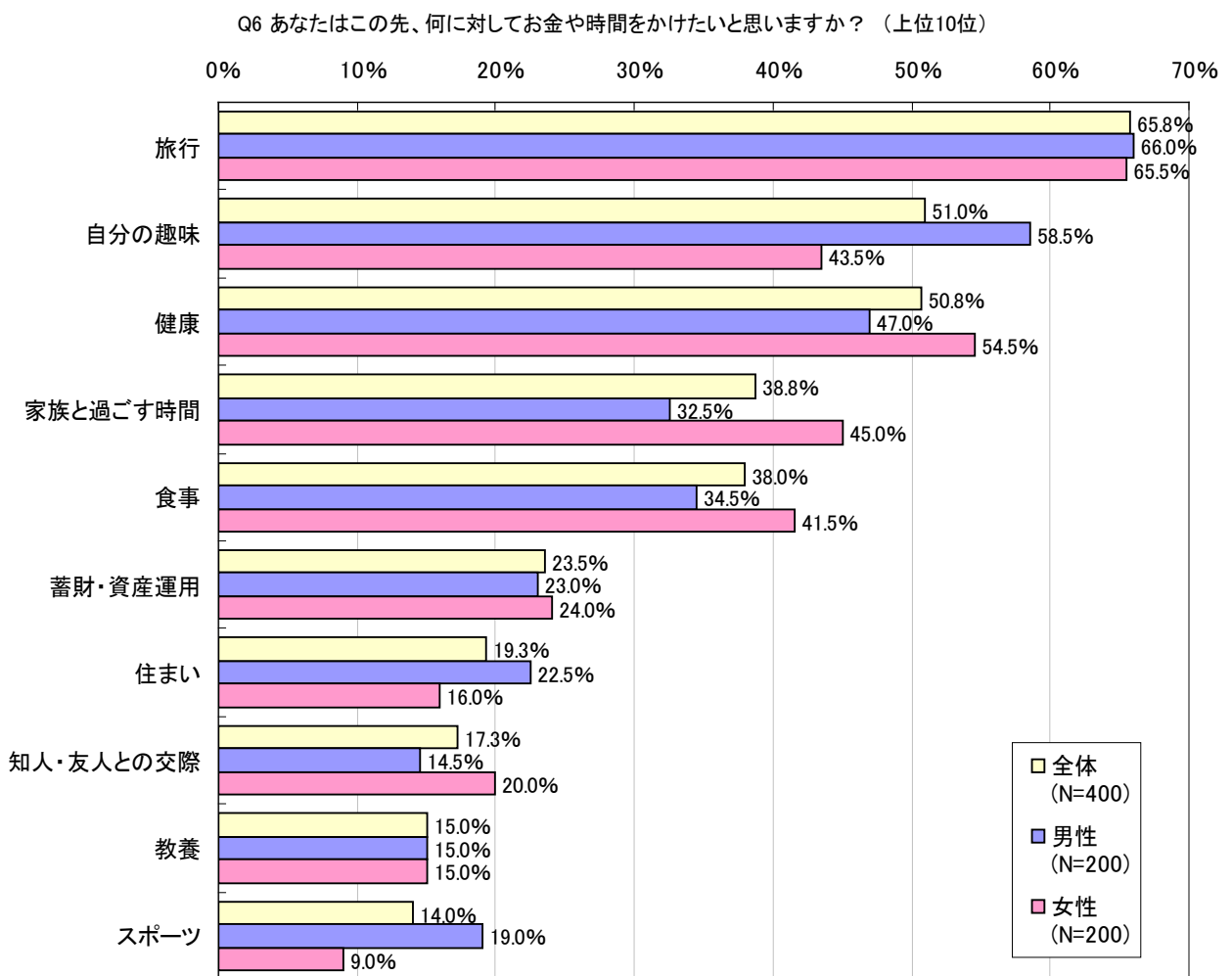


## 男性は「自分の趣味」や「スポーツ」、 女性は「家族と過ごす時間」にお金や時間をかけたい

「あなたはこの先、何に対してお金や時間をかけたいと思いますか？」という質問を複数回答でおこなった。

全体では、1位が「旅行」65.8%、2位が「自分の趣味」51.0%、3位が「健康」50.8%、4位が「家族と過ごす時間」38.8%、5位が「食事」38.0%という結果であった。

男女別に特徴的な項目をみてみると、「自分の趣味」や「スポーツ」では女性よりも男性、一方「家族と過ごす時間」では男性よりも女性の回答率が高かった。



## 宝物は「家族(配偶者・子供)」

最後に、「いまのあなたにとって宝物(いちばん大切なもの)は何ですか?」という質問をおこなった。

全体では「家族(配偶者・子供)」の回答率が42.5%と突出して高く、次いで「健康」が25.5%と続いた。

年齢区分別に特徴的な項目をみてみると、「家族(配偶者・子供)」では年齢区分が上がるにつれ回答率に低下傾向がみられた。

